

CAPNA

キャプナニュースレター52号

6月16日の総会において執行部の人事が了承され、5年間理事長を務めた岩城正光が監事に。後任の理事長に、菱田理が就任しました。また、新理事として、木村剛、鈴木郁雄、椰川佳延、野田正文の4人が就任。監事の山口幸雄と、理事の上野美子、柿本里佳、菊島正雄、田島淑子、塚崎真澄、野崎雅子、林恵美子、山田裕子、矢満田篤二が退任いたしました。

結成以来12年を経て、初期からCAPNAを支えてきた顔ぶれが次第に一線を退き、新しいメンバーにバトンタッチをしていく時期です。もちろん、子どもたちを守っていく熱い心は、結成当初から揺らぎはありません。

新執行部をどうぞよろしく願い致します。

Vol. 52

「愛・地球博 市民交流フェスタ」に出展します

愛・地球博の熱気を忘れられない方も多いのでは。多くの市民団体がつどい、未来の社会を考えた「地球市民村」で、私たちCAPNAも「子どもと話そう館」を一か月間運営し、多くの方々に活動をアピールしました。それから2年。今月18、19日に名古屋・栄の「オアシス21」銀河広場で、「愛・地球博」理念継承2周年記念事業・市民交流フェスタ2007が開かれます。

多くの市民が参加し、交流し、ボランティア活動をする中で、貴重な出会い、学び合いがありました。参加者たちが再び集う中で、成果を確かめて合いたいと考えています。

時間は、18日が午前11時から午後7時。19日が午前11時から午後5時。愛・地球博で好評を博した紙芝居「理想のママの作りかた」(森野さかな作・絵)を上演し、見ていただいた方に感じたことをメッセージカードに書いていただき、展示します。

また、子どもの虐待防止キャンペーンリボンであるオレンジリボンシールも配布します。ぜひ遊びに来てください。お待ちしております。

☆お知らせ☆

10月27日(土)、八田ヶの森(名古屋市西区)にて、
「ミニバザーとオレンジリボンキャンペーン」を行います。
ぜひのぞいてくださいね!!

ご寄付

次の皆様からご寄付をいただきました。お礼申し上げます。
(5月-7月分、順不同、敬称略)

【団体】日本アムウェイ子ども基金、国際ソロブチミスト名古屋

【個人】近藤良一、川島志徳、太田真理、中村寿湖、堀井裕子、和田悦子、水野めぐみ、中村ゆり子、水野理保、奥村美智子、林澄乃、浅野京子、加藤未央、依田一穂、角田恵、戸田郁子、近藤幸代、中尾晴美、伊藤明子、半澤美紀、小川律子、河野由里、椰川佳延、宮本ふみ子、矢満田篤二、岩城正光、榎原エリン

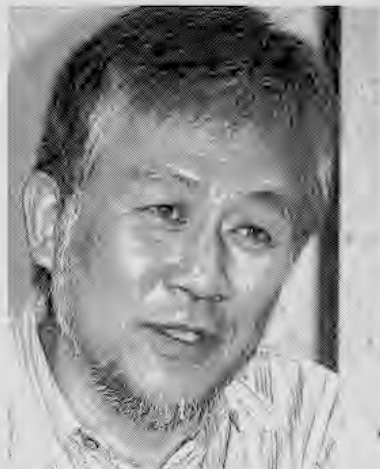
CAPNAニュースレター52号 (隔月刊36号)

2007年8月11日発行

発行 特定非営利活動法人 子どもの虐待防止ネットワーク・あいち

編集 CAPNA事務局広報チーム

事務局 〒460-0002 名古屋市中区丸の内1-4-404 TEL052(232)2880、FAX052(232)2882



松明を分かち合って

CAPNA 第3代理事長 菱田 理

園長すけ（初代理事長祖父江文宏さん）が亡くなって、岩城さんが理事長になったときには「松明（たいまつ）を受け継いでいく」と言った。ほくは、その松明を分かち合いたいという気持ちでいる。岩城さんにも引き継ぎ持っていてほしいし、私自身が引き継いだものも、他の人たちに分けていきたい。

とにかく子どもを救おうという気持ちで始めたCAPNAが、岩城さんのいう4つのステージ（発見・予防、介入、治療、再統合）の構築につながっていったことは、とても大きな意味がある。

「小さい人に笑顔があるように」— 私たちは何よりそう思う。虐待への対応をどうすればよいか、何ができるかを考えていくと、そこから「家族支援」の大きさが見えてくる。虐待予防につながる家族支援をNPOレベルで実現していくには、ネットワークが必要になる。CAPNAは、市民が集い、いろんな専門家が役割を持ちながら、議論し活動していく組織。ネットワークをつくっていく力がある。単につながっているだけの「連携」ではなく、子どもの虐待を防ぎ、権利を守るという目的を共有できるネットワークだ。ともすれば社会が、弱い人々を切り捨てる方向に流れる今、市民の力が問われている。小さい人たちの力になれるように、松明をつなげていきたい。（聞き手・安藤明夫）

新理事からのメッセージ

木村 剛（名古屋社会福祉協議会副会長） ほとんど何も知らずに引き受けてしまったCAPNA理事。総会で、ニューズレターで、そして事務局日誌で、ほんとうに多くの皆さんの活動により成り立っている組織だということを知りました。早く、一員になれるよう、ご指導ください。

鈴木 郁雄（ユニー取締役相談役） 社会福祉法人「愛知のちの電話協会」の評議員・理事を14年ほど務めていた関係で兼田常務理事とご縁ができ、はからずも理事に就任することになりました。まことに微力ですが、当NPO法人の活動に少しでもお役に立てれば幸いです。よろしくお願い致します。

柳川 佳延（中学校教諭） コーヒーならスタバのラテをワンショット追加、魚釣りならエサマツ丸でマイ、カウンセリングなら家族療法と神経言語プログラミングというのが私のこだわりです。このこだわりを情熱に置き換えてまずはメール相談からと思います。皆さんよろしくお願致します。

野田正文（一宮女子短大教授） CAPNAのみなさんには、これまでいろんな場面で大変お世話になりました。今回、お仲間に入れていただいたことで、ご恩返しなどという大層なことはできませんが少しでもお役に立てればと思っています。よろしくお願致します。

上野 美子 私は電話相談、理事、そして事務局スタッフとして開設以来ボランティアとして活動しました。理事25人で構成する理事会は事務局であり、同時に運営母体でした。2000年J a S P C A N あいち大会、2005年愛・地球博に参加する機会に巡り会うことができました。一人の市民として、子どもの幸せのために何ができるかという事を考え続け、実践してきました。今までもそうであったように、これからのCAPNAも可能な形と時間で、一人でも活動に参加できるボランティア団体であるという精神と道筋を持ち続けてほしいと願います。

柿本 里佳 学生時代に児童虐待に問題意識を持ち、縁あってCAPNAが産声を上げる前から活動に関わらせて頂きました。手弁当で集まるメンバーに出会い、市民団体のひたむきな活動が世論を動かす瞬間に立ち会えたことを誇りに思っています。この6月に自身が出産したことで、子育てと社会の関係や問題を今までと違う視点で捉える立場となりました。まだまだ日本の社会は子どもや母親サイドで動いているとは言えません。将来自分の子育てが終わった後なんらかのお手伝いできればと思っています。

菊島 正雄 一社で終始したサラリーマン勤めを終えて入ったCAPNAは驚きの別世界でした。こういう人たちが現実に身近にいて、ボランティア活動に没頭していると。そして振り返れば、子どもの虐待などは自分に全く関係ないと思っているビジネスの世界。企業の経営者たちにもろもろの社会問題を自分たちの問題として考え行動してほしいと思いついて努力してみました。結果はまったく微々たるものですが、この思いがCAPNAの伝統にささかでも残るならば、これに勝る幸せはありません。

田島 淑子 「もう育てられない。ここに子どもを置いていく」一車の走る音、響くクラクション。泣きながらの電話を、ある相談機関で受けました。胸がふさがれるようなその声に、どう応えたらいいのかわからない。その時、CAPNAの立ち上げのメッセージが届き、「学ぼう」と迷わず飛び込みました。それから10年余。今日もまた、虐待事件です。子育ての背景はさまざま。どんなことでも声を出そうよ、話そうよ。一緒に考えよう。「子どもはみんなの宝もの」—私の学びです。今も、これからも。

お世話になりました

塚崎 真澄 ふとしたご縁で（と言うよりは、ところてん式で）理事を担い、電話相談員にとっては「雲の上の会合」と感じていた理事会に参加させて頂くことになりました。初めは、100余名の電話相談員の思いを代弁すべく、肩に力を入れて臨んでいましたが、途中からは、相談員（リーダー会）と理事会の中間地点で双方を眺めていたような気がします。CAPNAの各部会のネットワークが、理事会でつながれているんだと体感した2年間でした。

林 恵美子 創設当時のCAPNAの懐かしみつつ、まだまだ発達途上だけれども現在のCAPNAの組織確立を目の当たりにして感慨深いものが胸にある。そして祖父江さんがご存命ならば、としみじみ思う。10数年を経て、良し悪しは別に、社会もCAPNAを受容。時流に身を置き、何ができるか、何を成すべきか自らに問う。

山田裕子 事務局の電話が鳴り続け、その対応でフラフラだったある日、電話の相手にお礼を言うつもりで、舌がもつれました。「ありがと一ごぞえますだっ」。振り返れば、広報・渉外担当として10年間、私が最も多く使った言葉は、やはり「ありがとうございました」でした。活動にご理解とご支援をいただいたとの願いから自然に出てきた言葉です。善意ある方々とのたくさんのお会いがあり、思いもかけない貴重な経験をさせて頂きました。心から感謝しております。長い間、ほんとうにありがとうございました。皆さま方のご健勝をお祈りしています。

山口 幸男 東京家裁や最高裁から名古屋の大学に転職した私は、相馬司教のご縁で「いのちの電話」設立に参加し多くの素敵な人々と出会えた。やがてそれらの人々とともに児童虐待防止活動開拓のお手伝いすることになり、日本子どもの虐待防止研究会愛知大会では学術集會を中心に祖父江委員長のお手伝いをさせて頂き戴いた。人生は出会いだと言われるが、OBとなった今、素敵な出会いに恵まれた幸せを噛み締めつつCAPNAに乾杯している。

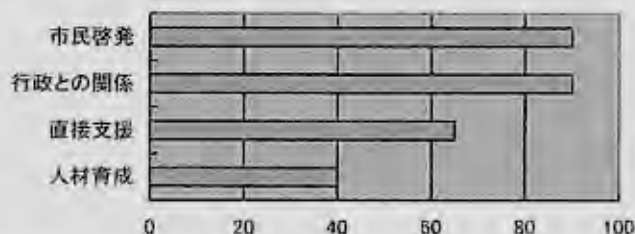
CAPNAの魅力は「人」

総会の際に会員の皆様にお尋ねした「CAPNA」アンケートの結果を報告します。これからのCAPNAへの希望、願いなどがいっぱい詰まっています。お寄せいただいた様々な意見に耳を傾けながら新しく就任した菱田理事長のもと、CAPNAはまい進いたします。今後もご指導・ご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

質問1. あなたはCAPNAのどこに魅力を感じますか？

＊「人材の豊富さ」「専門家の多さ」「かかわるスタッフの熱意と向上心」など、人的魅力を感じるとの回答が多かったです。組織に対する魅力としては「民間の自由な立場での支援」「市民団体が市民のために立ち上がっているところ」。活動使命に対する魅力としては、「社会に対する警鐘の役割を担っている」「重いテーマをボランティア精神で取り組んでいる」などが寄せられました。

質問2. あなたはCAPNAにこれから何を期待しますか？



- ＊ 一般市民への啓発活動に力を入れて欲しいという要望が多くありました。
 - ・継続した児童虐待防止を訴える地道な活動
 - ・市民一人一人の意識が防止につながるという広報、など
- ＊ 行政との関係については、
 - ・行政の出先機関とならないように気をつけて連携する
 - ・民間と行政との上手な協調関係を築く
 - ・公的機関では対応が遅れがちな事例への素早い対応、など
- ＊ 直接支援の要望も多くあります。
 - ・もうそういう要請に応じた活動をする時期ではないか
 - ・CAPNAにしかできない専門性を活かした活動を、など
- ＊ 人材育成も大切な要素です。
 - ・対外的(市民啓発)ももちろんだが、スタッフも常に研鑽が必要
 - ・虐待の背後に潜むものに対する優しくして真剣な眼差しを持ち続けてほしい、など

質問3. あなたは子どもの虐待防止のために何が必要だと思いますか？

☆ 母親に対して

- ・母親へのエンパワメントがまず必要
- ・予防プログラムとその実践
- ・周囲の暖かい見守りやきめ細かい支援体制
- ・母親支援が必要だという認識を社会が持つように

☆ 子どもに対して

- ・虐待を受けた自分は決して悪くないことを伝える
- ・CAPのように自分を守る力、信じる力を身に付ける
- ・話を一生懸命聞いてくれる大人もいることを伝える

☆ その他

- ・正しい知識を持った市民を増やし地域の人々でサポートする体制作り
- ・父親支援、これは社会全体のゆとりが関係すること
- ・教員と警察と児童相談所などの連携
- ・気付く力、センスを養うこと
- ・児童相談所や保健所だけでなく社会全体で子育てをしていくような整備
- ・これから親になる若い世代への教育
(虐待がいけないというだけでなくなぜ起きるのかということへの理解)

質問4. あなたは子どもの虐待防止のために何ができそうですか？

- ・CAPNAの会員を続けること
- ・一人ではなく周囲と協力し合い、確認していくこと
- ・気になる親子や子どもへのアプローチをしていくこと
- ・市民へのCAPNAの紹介、宣伝活動
- ・電話相談
- ・うまくいかないことがあった時に気軽に相談される人になりたい
- ・地域の中での情報収集と行政への通報
- ・相談活動を広げていきたい、例えばメール相談や面談など
- ・自分自身がいらいらしないこと
- ・子育て中の親へ思いやりを持つように周囲へ声かけ
- ・自尊感情が必要なのだと理解してもらおう
- ・活動資金を得るために企業からの寄付を増やす、など

子どもの虐待防止はみんなで考えていく問題です。みなさまからの貴重なご意見、ご感想を今後もお寄せください。